



# 定着ものがたり

三重県地域生活定着支援センター

Aさんは刑務所にいる。



- 食べ物を盗んでしまったからだ。
- それも一度ではなく、何度か。
- それでとうとう囚われることとなった。

# 刑務所に至るまでには色々あった。



- Aさんには、もともと障がいがあったようだ。
- だが、Aさんにはそれが理解できない。
- 人づきあいが苦手で仕事を転々とするようなところもあったが、両親がいる間は地域の住民として普通に暮らしていた。



- ところが、両親が亡くなってからは一人で何もかもしなければならなくなった。
- でも無理だった。
- Aさんはどうしていいかわからず、誰にも助けを求めることができなかった。

いま、Aさんは考えている。



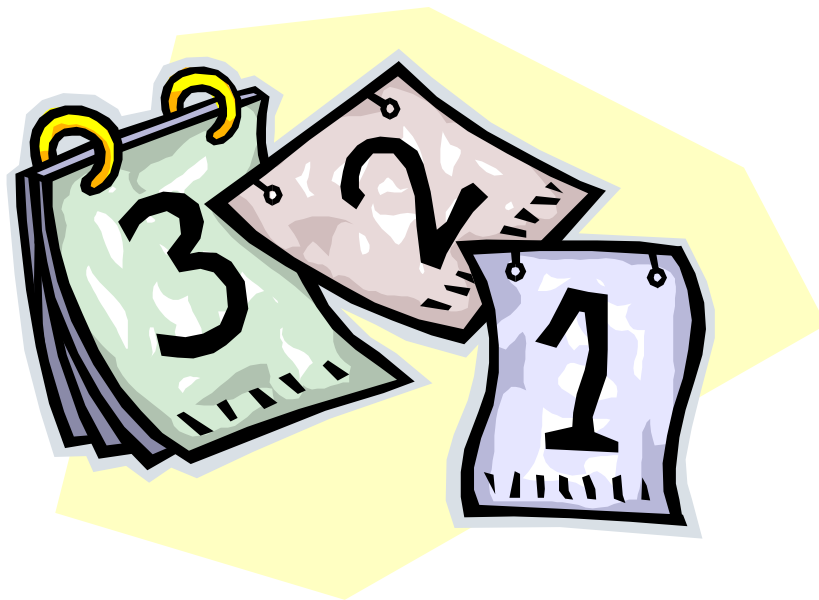
これからどうしたらいいのか、どこへ行くのか。  
だが、どうしたらいいかわからない。  
帰るお家もない。頼りにできる人もいない。  
なにより、自分の困りごとを言葉に出来ない。

もう少し刑務所にいられないかと思う。



- ここなら食べ物に困らない。
- 自分の力ではどうしていいかわからないことも、ここではルールがはっきりしていてわかりやすい。
- ここにいたほうが幸せなんじゃないかとも思う。

だが出所の日は近づいてくる。



- Aさんは引受人もいないから仮釈放はもらえず満期出所だ。
- だが、その日を過ぎたら一日たりとも刑務所にいることはできない。

もしも一緒に考えてくれる人がいたら・・・



刑務所にいるうちから、出所の生活について相談できる人がいたらお家も見つけられるかもしれない。生活のビジョンも描けるかもしれない。



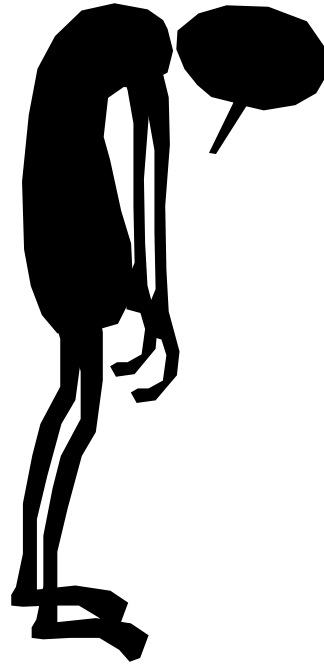


Aさんは、まず住居を確保しなければならない。その住所地をもって生活保護を申請する。そのためには、**矯正施設入所中からの関わりが必要**になる(特別調整)。

# 特別調整

- ① 高齢であり、また障がいがあると認められる。
- ② 矯正施設退所後の適切な住居がない。
- ③ 矯正施設退所後に福祉サービス等を受ける必要が認められる。
- ④ 円滑な社会復帰のために特別調整の対象が相当と認められる。
- ⑤ 特別調整対象となることを希望している。
- ⑥ 特別調整実施のために必要な個人情報提供に同意している。

だがAさんには住民票がなかった。



- 住所がなければ生活保護を申請することもできない。Aさんは、捕まったことでアパート失い、住民票も削除されてしまっている。



- こうした状況を鑑み、新たにAさんを地域住民として受け入れてくれる自治体の理解も必要だ。
- その意味において、定着支援センターの取り組みは出所者のコーディネートに留まらず、関係機関・地域の理解を深めていくことでもある。

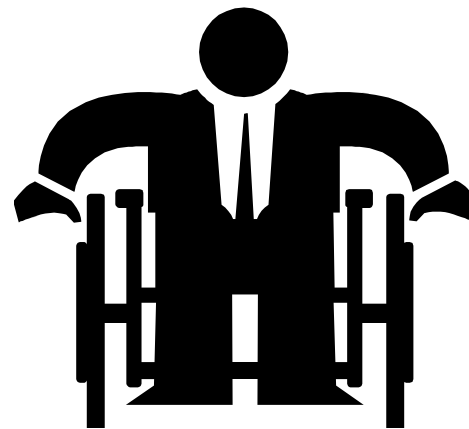
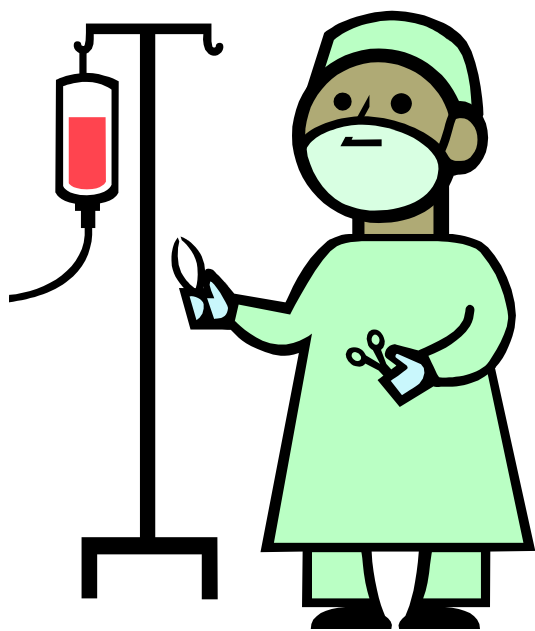
# ほかにも

- 生活費を搾取されており、権利擁護と新しい住処が必要なケース。



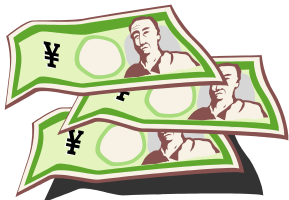
成年後見制度など

- 人工透析等、病気などのため出所後すぐに医療にかかる必要があるケース。



失明状態等により、介護がなければ出所後たちまち困難になるケース。

# Aさんに必要なもの

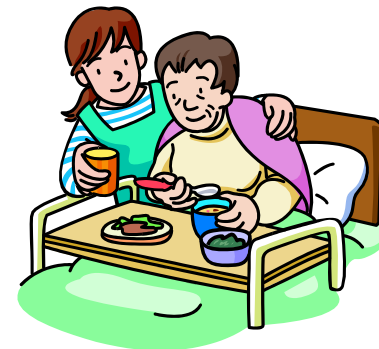
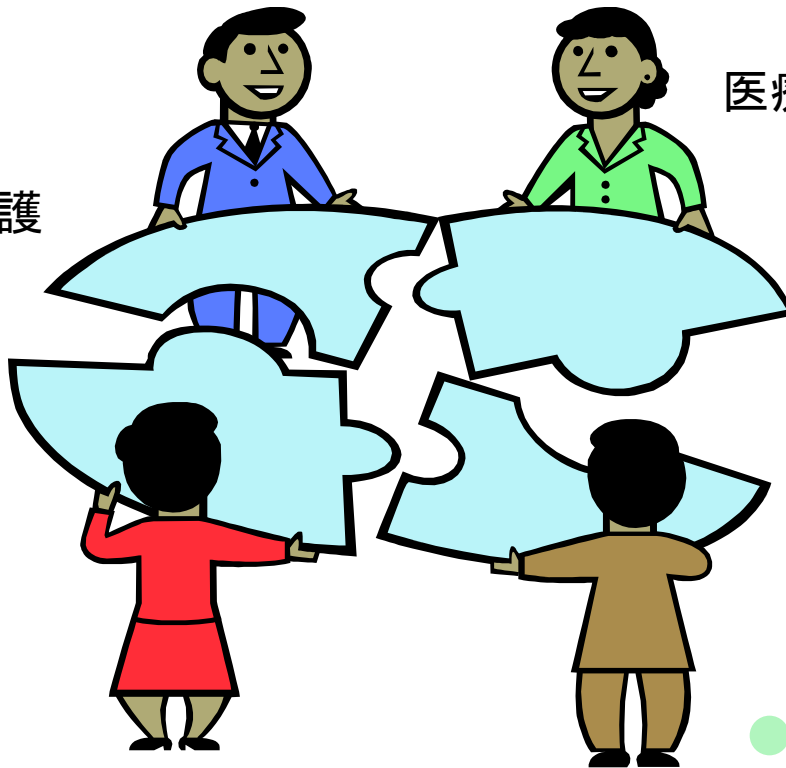


生活保護

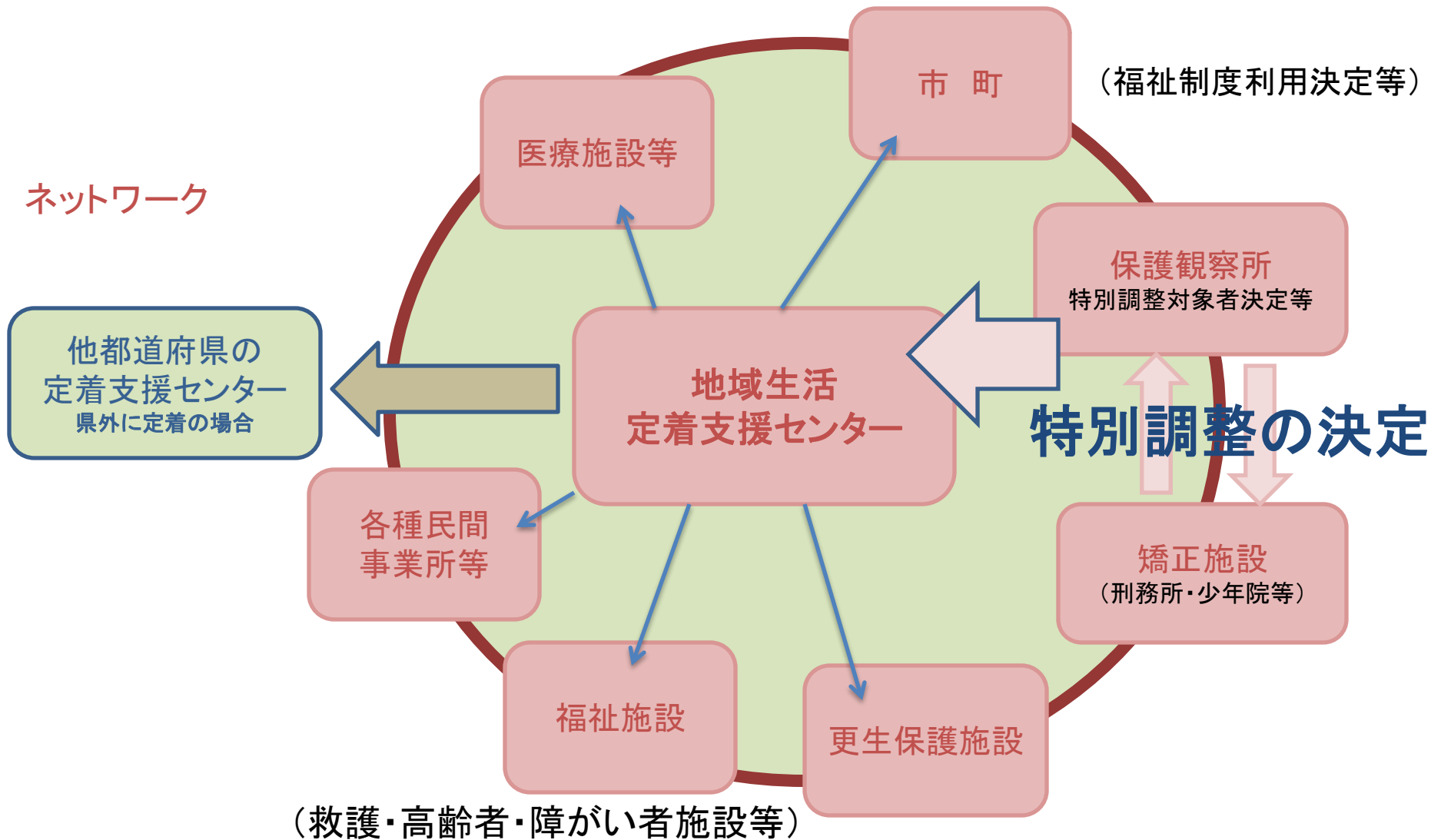
医療

住居

介護

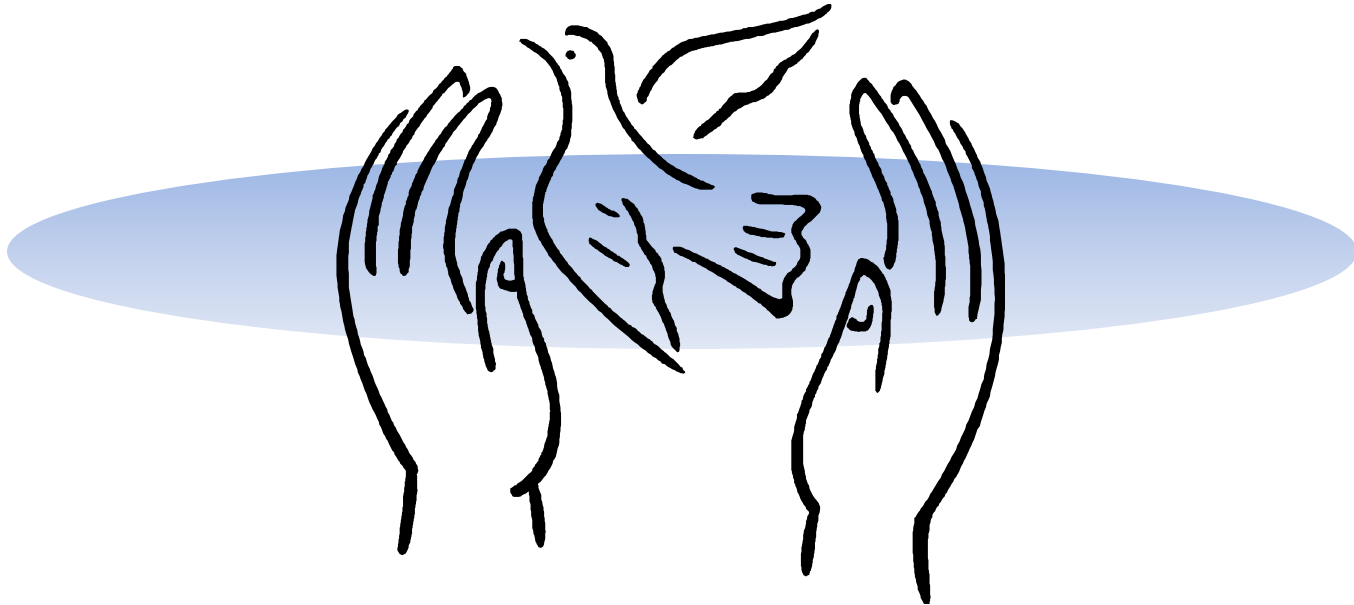


# 定着支援のネットワーク (コーディネート)





# いよいよ出所・・・



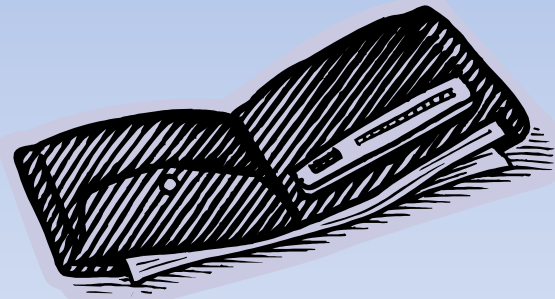
さまざまな調整も済み、なんとか出所の日を迎えることができたAさん。住居と生活費、医療的支援を得ることは出来、新しい生活をスタートさせたが・・・

- 刑務所に至るまでには長い歴史が…。
- 少しずつ「つながり」を失い、また、排除されてきた歴史でもある。
- 自立生活に立ちはだかる壁は、必ずしも…



アパートはある。

体のケアも受けられる。



生活費も確保できた。

だが...



# フォローアップ



- 環境だけ設定すれば終わり、ではない。もともと障がいを持っている人たちでもあり、その人の認知や生きづらさを補うようなプログラムも必要。その人とコミュニティとの関係がイーブンとなるような取り組みも必要。